

核兵器のない世界を
実現しましょう。

止めましょう！
テロも戦争も



日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート

日本共産党議員団

2017. 8. 9. No. 1500.

御相談はお気軽に

TEL とも **3905-0970**

FAX

さがらとしこ事務所

赤羽北3-23-17

(バス停「赤羽北3丁目」・メガンティ近く)

こんにちは。
台風そして、
厳しい暑さが
つづいています。
夏野菜も
しっかりと食べ、
水分睡眠にも
気を付けて
お過ごしください。



さがらとしこの
「区政レポート」
今号は**1500号**に
なりました。

●毎週およみいただき
まして、ありがとうございます。
発行から23
年余となりました。

●また、毎週、仕分けや
配布にご協力くださ
っている方々に、心お
感謝申し上げます。
区議 さがらとしこ

**核兵器禁止条約に署名する政府を
つくりましょう。** ※裏面に、長崎の田上富久市長の決意を紹介しています。



～2017年北区平和行進の出発を前に～区議団と池内さおり参院議員、それ都議

**「区営シルバー・ヒア赤羽北」が
完成しました。**

8/21から入居
はじまる!



2017/08/02

<場所>旧北園小あと
赤羽北3丁目です。

<問合せ先>
北区住宅課
(3908) 9203



2017/08/02

●平成27年から、特養ホームさくら荘と合築と保育園が
建設され、こと4月に開設。ついで、シルバーホームも完成しました。
(高齢者住宅)

※シルバーホームの中庭には、
北園小卒業生の大切な思い出も
残すことができました。よかったですね。



2017/08/02

※これが、通り抜けできる
入口付近の様子です。
8月9日(水)から、通れる予定。

核兵器と人類は共存できないと訴えつづけた被爆者



長崎市長

田上富久さん

2017.8.6付「しんぶん赤旗」
広島版

市民社会も支持の声あげよう

私も懇談しました。条約が被爆者の苦難の経験と努力にしっかりと言及したのは、被爆地の市長として非常に感慨深いものがあります。

心から血流して

被爆者が体験を語るという役割を担ってきてくれたおかげで、私たちはいま核兵器禁止条約を手にすることができました。核兵器と人間は共存できないと言いつづけてきた被爆者の存在に改めて世界が目を向けたことが、条約で被爆者が言及されたことにつながったのだと思っています。

核兵器廃絶を実現するには、核兵器保有国や核の傘の下にいる国の参加が大切になります。条約は、それらの国も参加できるように配慮されています。これは非常に重要です。

被爆者の中には、被爆したことを子どもや孫に話せない人がかなりいます。話すには、思い出すことが必要になるからです。ある意味、かさぶたになったものをもう一度かきむしり、心の中で血を流さないと話せません。なぜ被爆者がつらい話



1955年8月・広島

第1回原水爆禁止世界大会で壇上から訴える被爆者代表＝1955年8月、広島市



核兵器禁止条約の採択が決まった歓迎の中で握手を交わす被爆者のサーロ一節子さん(中央)と藤森俊希さん(その左)＝7日、ニューヨークの国連本部(池田晋博撮影)

国連会議

2017年7月7日
核兵器禁止条約採択の瞬間

をしてくれるのか。それは、他の人たちに自分たちと同じ経験をさせてはならないという気持ちからです。

私は五島列島出身で、両親は被爆者ではありません。私の核兵器廃絶を求める原動力は、被爆者の方々から聞いてきた被爆体験の話です。被爆者が話してくれる理由に思いをはせるとき、核兵器をなくさないといけないという思いを、被爆者と共有します。

国連で核兵器禁止条約が採択された現在は、国家のレベルで核兵器禁止を規範にしようとした段階だと思います。これ

から市民社会の方も、これが私たちの望む規範ですということを示していく必要があります。

8月に長崎で開かれる平和市長会議の総会は、そういう場の一つです。ヒバクシャ国際署名などで、さらにいろんな人たちや団体が次々に支持していると声をあげることが非常に大事です。それが本当の意味で核兵器禁止を世界の規範にする過程です。

これからも市民社会の一員として、核兵器はいらない、核兵器禁止条約を世界の規範にしようというメッセージを発信していきたいと思っています。

核兵器禁止条約を
すべての国が結ぶことを
求める署名

私たちが
この地域から
あげましょう。

さからし事務所
(3905)0970